






















◎ 県内の景況(情報連絡員報告から)

<7月> 業界の景況(前月比DI値)

先月同様、新型コロナウイルスの影響により、景況感の悪化が続く。

情報連絡員報告をもとに景況についてDI値を作成しました。業界の景況についての項目を「好転」割合から「悪化」割合を引いた値をもとに作成し、その基準は右記のとおりです。

| 30以上 | 10~30未満 | 10未満 ~△10 | △10超~ △30未満 | △30以下 |
|---|---|---|---|---|
|  |  |  |  |  |

| 業種 | | 業界の景況(前月比DI値) | | | |
|------|---|---|---|--|--|
| | | 令和2年4月 | 令和2年5月 | 令和2年6月 | 令和2年7月 |
| 製造業 | 食料品製造業 |  △ 83 |  △ 50 |  △ 33 |  △ 17 |
| | 木材・木製品製造業 |  △ 100 |  △ 100 |  △ 100 |  △ 100 |
| | 印刷・出版 同関連製造業 |  △ 100 |  △ 100 |  △ 100 |  △ 100 |
| | 窯業・土石製品 同製造業 |  △ 33 |  △ 67 |  △ 33 |  0 |
| | 鉄鋼・金属 同製造業 |  △ 67 |  △ 67 |  △ 67 |  △ 33 |
| 非製造業 | 卸売業 |  △ 100 |  △ 20 |  △ 40 |  △ 60 |
| | 小売業 |  △ 100 |  △ 83 |  △ 67 |  △ 67 |
| | 商店街 |  △ 100 |  △ 100 |  △ 67 |  △ 67 |
| | サービス業 |  △ 83 |  △ 83 |  △ 80 |  △ 33 |
| | 建設業 |  △ 50 |  △ 50 |  △ 17 |  △ 17 |
| | 運輸業 |  △ 100 |  △ 67 |  △ 67 |  △ 50 |
| その他 |  0 |  0 |  0 |  0 | |

各業界の詳細(前年同月比、業界の動き)が必要な方は本会までご連絡ください。

| 2. 組合及び組合員の業況等(景況の変化とその原因・現状等、企業経営・業界での問題点) | |
|---|---|
| 味噌醤油業界 | Go To トラベルキャンペーンにより、ホテル・観光業者への納品が出来るようになり、売上はわずかではあるが回復しつつある。一方で、全国的に新型コロナウイルス感染者が増加しているため、飲食業への納品は依然として停滞しており、相変わらず業況に変わりはない。 |
| 製パン業界 | 前月と同様の状況が続いている。 |
| 水産練製品業界 | 売上が回復しないため、資金繰りは厳しい状況が続いている。本格的に観光客が戻らなければ、更に厳しい状況となる。 |
| 酒造業界 | 飲み会は三密になりやすく、依然として自粛傾向にあるため、清酒の消費は大きく減少しているところだが、わずかに回復傾向が見られる。 |
| 製麺業界 | 新型コロナウイルスの影響で、スーパー等の流通販売ルートは前月に引き続き非常に忙しい。一方、土産店や百貨店、業務店ルートは厳しい状況にある。 |
| 木材業界 | 県内の6月の住宅着工数は1,496戸で前月比16%増加したが、前年同月比は1%減少し、11ヶ月連続での減少となった。今年上期の着工数は前年比20%減少し、全国ベースの11%減少よりも低水準となった。原木の値下がりやが止まらず、中目・大径材は応札が無く、ほとんどが不落した。また、製品も荷動き、価格とも低迷した。合板は減産を続け、需給調整で相場の引き締めを図っている。 |
| 印刷業界 | 緊急事態宣言により業況は大幅に悪化した。その後の解除により、人の動きが戻りつつあったが、ここにきて感染者の増加により、再び見通しが立たなくなっている。イベントの相次ぐ中止が業界に与える影響は深刻である。 |
| 生コンクリート業界 | 出荷量は、前月比92.9%、前年同月比76.1%にとどまり、収益も大幅に減少した。県南地区は、先月から昨年の台風19号被害による復旧工事が動き出し出荷量が伸びたが、気仙沼地区は、今月、震災復興事業が収束した事により激減した。その他の地区も物件の減少とともにコロナ禍の影響により、業界全体が低調傾向にある。市況価格の値下がりが心配される。 |
| コンクリート製品業界 | 6月の出荷量は、前月比141%、前年同月比も121%と昨年の実績を上回ったが累計では96%であった。今後の生産量の調整と在庫量管理が大切な時期であり、出荷促進を継続しなければならない。 |
| 砕石業界 | 例年、夏場の出荷は低調であり、今年も減少傾向にある。 |

| | |
|----------|--|
| 機械金属業界 A | 前年同月比では、相変わらず売上高の減少、収益状況の悪化が見られるが、前月と比較するとわずかに持ち直した。しかし、第2波が懸念され、まだまだ予断を許さない状況である。 |
| 機械金属業界 B | 新型コロナウイルスの影響を受け前月より更に売上が減少した。いまだ新型コロナウイルスが収束する兆しが見えず、来月以降も悪化が続くと予想される。 |
| 各種卸売業界 | 新型コロナウイルスの影響で業況が悪化している。 |
| 再生資源業界 | 7月の鉄スクラップ相場は、5月の急激な下落から6月の上昇、再度、急激な下落という相場展開となり、7月初旬の膠着状態から、7月末には若干値上がりした。国内の鉄スクラップの発生が非常に悪く、スクラップ業者は集荷難により苦しい状況にある。 古紙は新聞・雑誌・ダンボールの発生が、前月より10%以上減少しているが、国内製紙メーカーの生産も落ちており、原料、製品ともに均衡状態を保っている。 |
| 繊維業界 | 少しずつ客足が戻りつつあったが、ここに来て第2波が懸念され、外出にブレーキがかかり、平常時に比べ客足が減少している。衣類に比べるとクールマスクや冷感商材の動きが良く、ネット販売やリモートセールスの準備が進み始めた。 |
| ゴム製品卸売業界 | 経済活動が活発になりつつあったが、7月に入り第2波と言える状況となり、また4月頃に戻ってしまった。中心となる関東・関西・中部地区が不振のため、今後の見通しが全く読めない。 |
| 鮮魚卸売業界 | 7月に入り、週末の客足が戻り始め、小売りに特化した一部の店舗は一息つけるところまで回復した。卸売は相変わらず売上が減少傾向にあるものの、スーパー等に卸している一部の店舗は順調に売上を確保している。本マグロの水揚げが続いているが、値が付きにくく相変わらず低調に推移している。 |
| 鮮魚小売業界 | 7月の豪雨や海水温上昇の影響により、不漁が続いている。生サンマをはじめ、イカ、カツオ、小女子が不漁のため価格が高騰した。 |
| 青果小売業界 | 客足は戻ったが、消費者の購買意識は自粛期間中のまとめ買いから必要最低限の購入へと変化したように感じる。全国的な大雨や記録的な日照不足は、先月以上に農作物の価格を高騰させた。品質の劣化や生育の遅れなどもあり、市場内への入荷が非常に少なく、仕入・販売ともに苦勞した。売上だけをみれば前年同月比では増加傾向にあるが、利益はほとんど取れずに赤字となった業種もあった。天候に大きく左右される業種は、持続化給付金の前年同月比50%以上減の基準を満たさず支給対象にならないため、資金繰りがますます厳しい状況 |

| | |
|----------|---|
| | となっている。 |
| 食肉小売業界 | 新型コロナウイルスによる影響が大きくでている。 |
| 家電小売業界 | 夏商戦が本格化するなか、新型コロナウイルス感染拡大で商戦自体は苦戦しているが、自粛緩和以降の販売は動き出している。巣ごもり消費の関係でまとめ買いによる冷凍保存の関心が高まっており、大容量冷蔵庫への買い替えに繋がっている。地域店の個展開催時では新型コロナウイルス対策を徹底し、今後も顧客を第一に考えた企画をたて、信頼関係を深めていきたい。 |
| 石油小売業界 | 新型コロナウイルスの影響により、世界的に原油需要が減少するなか、ますます需給動向に不透明さが増している。中東産油国の値上げにともない、原油が上昇基調に入り、高止まりとなったことが要因と思われる。例年8月は、夏休みやお盆期間に入るため、ガソリンの需要が高まるが、今年は新型コロナウイルスの影響で外出自粛傾向にあり、厳しい経営環境に追い込まれている。こうした状況の中、国内の小売価格は、これまでの上昇分が転嫁されたのに加え、原油価格が上昇していることから、今後も値上がりが見込まれる。 |
| 花卉小売業界 | 売上は前年同月対比 105.2%と前年を上回った。洋花を中心に取引価格が高値で推移し、仕入額が跳ね上がる傾向が見られた。今年は梅雨が長引いた事による日照不足等、天候不良が間接的に生花の高値に影響した。花卉業界は依然として活況は見られず、お盆・秋彼岸の需要に期待している。 |
| 商店街 | <p>(仙台地区A商店街)</p> <p>前月と比較すると好転しているものの、前年比では回復していない。</p> <p>(仙台地区B商店街)</p> <p>夏の大型イベントが次々と中止となり、商店街は日々静かに時が流れている。テレワークが拡大・定着し、昼時の人出は減少している。物販は、近々開始される仙台市中心部商店街割増商品券による売上増に期待している。</p> <p>(大崎地区A商店街)</p> <p>コロナ禍の中で商店街の商況は厳しい状況が続いている。テイクアウトに力を入れている飲食店は、ある程度売上効果に繋がっているが、アパレル関係は、閉店を余儀なくされる店舗も出てきそうである。商店街振興組合として、市の助成を受けながら、商店街を含む行政区単位で活用できる金券発行を模索中である。</p> |
| クリーニング業界 | 個人クリーニング店の廃業が進んでいる。 |

| | |
|----------|--|
| 自動車整備業界 | <p>県内の自動車登録台数と車検台数は例年どおりに推移している。現在、自動車整備業から新型コロナウイルスの感染者はでていないが、大きな不安材料となっている。</p> |
| ソフトウェア業界 | <p>ソフトウェアの請負業務は5月時点で5%の減少にとどまったが、新規業務が新型コロナウイルスの影響で減少しているため、7月時点での業務量は前月に続き5~20%減少した。派遣業務は前年度の派遣法変更に伴う人件費増加による経費率の高騰に加え、派遣要請に減少傾向がみられ、前月と同様に収益率が5~10%減少し、厳しい状況が続く。サプライに関しては新型コロナウイルスの影響で各企業が物不足対策で、3月・4月に上昇した反動により6月からは売上が20%減少したが、7月は回復傾向にある。</p> |
| 警備業界 | <p>宮城県内は各種観光イベントの自粛、中止等で、それに伴うイベント警備、雑踏警備が全く見込めない状況である。当組合で毎年受注していた仙台青葉まつり、仙台七夕まつりに伴う警備業務も中止となった。今後は各社とも夏以降の公共工事の発注に期待しつつ、交通誘導警備業務の受注に力を入れたい。</p> |
| 湾岸旅客業界 | <p>コロナ禍では、先行きが見えない。一刻も早い新型コロナウイルスの終息を願うばかりである。</p> |
| ホテル・旅館業界 | <p>Go To トラベルキャンペーンがスタートし、前月比は好転したが、前年同月比では、依然として厳しい状況が続いている。</p> |
| シーリング業界 | <p>作業所の閉所も緩和され、一斉に動き出した物件の対応に追われている状況に変わりはないが、長梅雨の影響が非常に大きく、工期が差し迫る中でも工事が進まない状況にある。また、事業所間での工事量のバラつきが人員の調整に繋がっていたが、現状ではどの事業所も工期に追われており、調整が難しくなっている。材料の出荷量については前月比、前年同月比より持ち直してきているとの報告が上がってきた。直近の大きな問題は人出不足であり、組合としては連携を密にして対応に努めたい。各社の経営状況は、諸々の問題が山積みではあることに変わりなく、第2波が懸念される中、いち早い情報の発信や、どのような準備が必要なのか、知恵を出し合い共有して乗り越えていきたい。</p> |
| 建設業界 | <p>建設業は三密を防ぎ、徹底した感染防止対策を講じたうえで、通常どおり現場施工が行われている。復興事業も総仕上げの段階に入っている中で、昨年の台風19号被害における復旧事業の工事発注も本格的に始まっている。一方、防災・減災、国土強靱化3ヶ年緊急対策が今年度で終了することから、来年度以降の事業量確保が大きな課題となっている。</p> |

| | |
|----------|--|
| 硝子業界 | 新型コロナウイルスの影響と季節商品の網戸の需要が高まったが、供給が追いつかず、工事未完が発生している。 |
| 板金業界 | 新型コロナウイルスの影響で前年に続き厳しい状況となっている。 |
| タクシー業界 | 毎月、輸送人員は増加しているが、対前年度比では7割程度にとどまっている。 LPG 価格は徐々にではあるが、値上がり傾向にある。 |
| 軽自動車運送業界 | 運送業に関して自粛要請はなく、依頼があれば関東でも関西でも北海道にでも出向いている。個々のドライバーの感染予防は、大変ではあるが、現在感染者は出ていない。予防対策のなか、通常業務を行っていく。 |
| 不動産業界 | 賃貸マンションは、住み替えやブライダルシーズンを先取りした問い合わせが多い。オフィス賃貸も低空室率を維持し、賃料相場も堅調に推移している。 |